

海軍ニュース：西沙群島永興島の埋立拡張工事

漢和防務評論 20150805 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は西沙群島で最大の永興島の埋立を拡大し、3000 M 級滑走路を建設しました。
また港湾施設を軍艦用に整備し、7000 トン級の水上艦艇も停泊できるようになりました。
2012 年、中国は既得権を主張するため、南シナ海全体の島嶼を新たに設立した三沙市に編入し市の行政機関を永興島に置きました。
中国は永興島を南シナ海島嶼掌握の中心に位置付けています。

KDR フランクフルト報道：

中国は、南シナ海珊瑚礁で大規模な埋立工事を行うと同時に、2014 年から永興島 (Woody Island) で大規模埋立工事を行って飛行場を拡大した。滑走路は 2200 メートル(M)から 3000 M に延長され H-6K 型戦略爆撃機の離着陸が可能になった。このほかの埋立工事も進行中で、飛行場だけでなく、1000 M×500 M の空地を造った。このことは飛行場の規模が今後拡大することを示している。この空地には、格納庫或いは地对空ミサイル基地が建設される可能性がある。

また 2014 年には、新たな港湾施設が完成し、揚陸艦が常時停泊できるようになった。飛行場の規模及び港湾施設の形態は明らかに軍用であることを示している。特に港湾施設は、燃料タンク、倉庫の建設が基本的に完成し、現在 7000 トン級水上艦艇の停泊が可能になった。

信号情報監視基地は、多くの管理施設が完成した。これらの施設は総参謀部第 3 部所属のはずである。島上に次々に出現する軍事施設は偽装され、緑化されている。多くの空地に何が建設されるのか現在不明である。

埋め立てられた飛行場地区に多くの工事用車両が出現していることから、今後埋立工事は更に拡大し、永興島の面積は少なくとも現在の面積の約 130%になるものと考えられる。戦略爆撃機の離着陸が可能になることは、永興島が不沈空母に比べ更に戦略的価値を具備することになる。H-6K が永興島から離陸すれば、南シナ海のすべての周辺国家がその行動半径に含まれる。このほか 3000 M の滑走路であれば、全ての第 3 世代戦闘機の離着陸が可能である。

現在の南シナ海全体の埋立工事の進展状況及び規模から見ると、中国は、永興島のほかに、少なくとも 1 乃至 2 個の軍用飛行場を建設するであろう。

飛行場建設後、これら前哨飛行場に進駐する中国軍用機の数が大々的に増加する可能性がある。その規模は、2 乃至 3 個連隊分に達する可能性がある。そうなると、

ベトナム全土、特にベトナム南部の全ての軍用飛行場を含む南シナ海全体は、中国軍機の絶対的航空優勢下に置かれ、南シナ海飛行場から離陸した中国戦闘機、爆撃機、攻撃機の攻撃範囲に入る。この逆（ベトナム空軍のほか南シナ海周辺国空軍の攻撃を受けること）もまた然り。
米国空母艦隊がこの地区に進出した場合、航空戦力だけを比較すると、永興島及び埋立工事が完成した飛行場の中国戦闘機の数は1個空母艦隊の戦闘機の数を上回る。

以上



2012年1月(Google earth)



2015年1月(Google earth)